

課題名 大学生の留学意欲に関する国際調査研究

研究代表者名	工藤 与志文 (教授学習科学)
研究組織等	本郷 一夫 (人間発達臨床科学)
	神谷 哲司 (人間発達臨床科学)
	安保 英勇 (人間発達臨床科学)
	若島 孔文 (人間発達臨床科学)
	深谷 優子 (教授学習科学)
	田中 光晴 (アジア共同学位プロジェクト)

研究目的と方法

研究代表者および分担者から成る研究グループは、平成 24 年に本学の 1 年生を対象に「大学の秋入学に関する意識調査」を実施した。これによると、ギャップタームにおける留学について、東北大生の意欲は総じて高くないものの、大学側の提供する海外研修プログラムへの参加にはより積極的な姿勢がみられた。この結果を踏まえ、上記の研究グループは平成 25 年に本学 1 年生の留学意欲に関する意識調査を実施した。その結果、外国滞在の経験に乏しいこと、「外国に行ってみたい」「外国語能力を高めたい」とする者が多く、外国語での学位取得や外国での就労といった希望はそれほど見られないこと、現時点では留学準備をほとんどしておらず、英語を「話す」「聞く」については自信がないこと等が明らかとなった。以上の研究結果をふまえてその発展形として、台湾・韓国等の海外の大学生の留学意欲に関する調査を行うことにした。この調査の目的は、留学意欲の実態や留学の促進・妨害要因を明らかにすることで、東アジアの学生の日本留学を促進する方策を立てる上での基礎資料を得ることである。さらに、東北大生に対する調査結果と比較検討することにより、それぞれの学生の留学意欲の違いや特徴を明らかにすることも可能になると思われる。研究方法は基本的に質問紙による意識調査を中心とする。

研究の経過

(1) 5 月 21 日に第 1 回研究会を開催し、今後の研究のすすめ方について協議した。その結果、以下の点を確認した。①東北大データの分析を引き続き行う。②自由記述の内容整理について進める。③海外の学生に関する調査については、深谷准教授がサバティカルで滞在中の台湾師範大学を候補とし、深谷准教授と連絡調整を行う。④台湾調査用の質問紙作成にとりかかる。

(2) 台湾調査用の繁体字版調査用紙が完成したので、5 月 27 日に深谷准教授に送付し、台

湾師範大学側に調査協力をお願いした。

- (3) 7月24日に第2回研究会を開催した。東北大生の調査結果、特に自由記述についての報告があり、それについて検討した。さらに、東北大生対するにインタビュー調査について検討し、インタビューの目的や質問内容については、次回の研究会で検討することにした。また、台湾での調査については、台湾政治大学での調査の可能性についても検討を行った。
- (4) 9月11日に台湾師範大学教育学院1年生を対象とする調査用紙500部を送付した。
- (5) 11月22日に台湾から調査データが届いた。
- (6) 11月26日に第3回研究会を開催し、台湾の調査について以下の点を確認・検討した。
 - ①台湾の調査データは430程度である。
 - ②データ入力是中国語を解する留学生に依頼し、入力後ただちに基礎集計を行う。
 - ③東北大データと比較して研究論文にすることを検討する。

研究の成果

現在は台湾の調査データの基礎集計を終えた段階であるが、現時点までの成果としては、以下の点があげられる。

- (1) 海外の大学生の留学意欲に関する調査用紙を作成した。この調査用紙は、台湾の学生用として作成した繁体字版であるが、中国の学生用の簡体字版や韓国の学生用にも転用可能である。
- (2) 教育学系の学部1年生という限定はあるものの、台湾の学生の調査データを入手できた。調査項目は東北大のデータと比較可能なように作成されているので、相互の比較検討によって、それぞれの学生の留学意欲の実態や違い、日本の大学がアジアの学生を受け入れる場合に留意すべき点などに関する知見が得られるものと思われる。なお、研究成果については、関係学会での発表及び学術誌の論文という形での公開を考えている。

以上